

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 町田真弘会

- ・ 法人本部 総務
- ・ 高齢者グループホーム光の園町田
- ・ 高齢者デイサービスセンター光の園町田
- ・ 高齢者グループホーム光の園おおくら
- ・ 小規模多機能ホーム光の園おおくら

目 次

- ◆社会福祉法人 町田真弘会 中長期運営計画の進捗状況について・・・ p.3 - p.6

- ◆令和3年度 法人本部及び各事業所の年間目標に対する達成状況・・・ p.7 - p.11

- ◆令和3年度 各事業所「稼働率」目標に対する達成状況・・・ p.12

- ◆年間行事計画 実施報告について・・・ p.13 - p.14

- ◆人材の雇用、ICT、BCP について・・・ p.15- p.16

- ◆職員定例会議、各種外部会議、研修、委員会の実施状況について・・・ p.17 - p.18

- ◆地域との交流活動報告・・・ p.19

- ◆社会福祉充実計画に関して・・・ p.20

総括

①法人

<稼働率・売上に関して>

令和3年度はデイサービスの稼働率が68%を達成。小規模多機能も通所利用者の定員を15名から12名へと抑えた上で、安定した運営ができております。グループホーム光の園おおくらは入退院に加え、新型コロナウイルスの影響で入院先から戻ってこれない状況が重なり、入れ替えが多い1年でした。稼働率は96%と目標を達成しています。グループホーム光の園町田は平均要介護度が4と重度化しておりますが、利用者様の入れ替わりも少なく稼働率は98%を超えています。売上に関しては前年度比103%となっております。

	令和2年度	令和3年度	増減	前年度比
売上	344,955,211	355,444,948	10,489,727	103%

<事業継続に関して>

令和3年度はBCPの周知、日頃からの訓練、職員への教育を行いました。職員も入れ替わりがあり、入社年月の少ない職員も多いため災害に対する認識や、自施設の設備に対する把握が不足していることが分かりました。この課題に対して、令和4年度では防災に係る委員会を単独で作成し、職員への周知、教育を強化していきたいと考えます。

<新型コロナウイルスについて>

感染症対策として施設内の除菌、消毒、利用者の健康チェック、職員の検温、手指消毒の徹底、第三者の面会の制限、外出行事の自粛を行ってまいりました。オミクロン株に起因して、国内における爆発的な感染拡大がありました。利用者、職員に対してワクチン3回目接種を実施、日本財団のPCR検査を毎週実施することで、施設内における利用者への感染はなく、徹底した対策が行えました。一方で利用者の入退院先、近隣の市設でのクラスター、職員の家族が陽性になり職員が濃厚接触者となるため、長期で休まなくてはならない状況がうまれるなど、稼働率や人員配置の面で大きく影響があった1年でした。

<人材不足に関して>

各事業所の人材についてはやはり現状で不足しています。求人広告や募集をかけるも新型コロナウイルスの影響か、応募があつまらない1年でした。Web媒体での広告は一定の効果があったので引き続き活用していきます。ホームページ上の採用に係るコンテンツの強化が課題として残っています。一方で高校生新卒採用については2021年に続き、2022年4月から2名の新卒採用を行うことができました。合わせて専門学校卒業生に関しても、2022年4月から1名の新卒採用を行いました。各学校に対しては今後も関係を構築し、安定した採用を行えるよう継続して参ります。

<新規事業に関して>

多摩市に対してグループホーム公募のヒアリングを行いました。また、八王子においても新規グループホーム設立の公募が出ておりました。農協や不動産関係の会社に土地を探していただき、多摩市、八王子市において3箇所ほど土地の紹介をしていただきました。その中で課題がみつかりました。多摩市では、グループホームと小規模が建てられるような広い土地が現状みつからないこと。八王子市では、広い土地はあるが、アクセスが悪く集客や人材の確保が難しいことがわかりました。引き続き、事業運営ができそうな土地を探していきます。

②高齢者グループホーム光の園町田

令和3年度の稼働率は98.4%でした。7月以降は、稼働率がほぼ100%で推移することができました。職員ひとりひとりが利用者の方に対してきめ細やかなケアを行い、感染症対策の徹底、転倒等の大きな事故を防ぐリスクマネジメントができたのかと考えます。一方で看取りまで行うため、平均要介護度は4、平均年齢も90歳を超えておりますので利用者の方の日々の変化に注意して運営を継続していくとともに、見学等の窓口を広げ待機者の確保をする事が今後の課題だと考えます。利用者の皆様に対してはコロナ禍2年目で引き続き、外出の制限、行事、買い物、地域との交流、家族との面会等を抑えながら運営を行ってきました。施設内でのレクリエーション、近隣への散歩、ドライブ等により利用者の方がいつもと変わらず過ごせるよう職員が考え行動して参りました。

③高齢者デイサービスセンター光の園町田

令和3年度の月間ご利用者様の延べ人数は月平均327人、年間稼働率も68%と目標の65%、また、前年の67%を上回ることが出来ました。登録者数は3月末時点で36名と目標の35名を1名上回っています。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け数日間の休業を余儀なくされた期間がございました。改めて感染症対策の見直しを行っています。

行事面では引き続き自粛状況にありますが、施設周りや近隣の散歩、ドライブコースの工夫等で運動量の低下を防ぎ、良い刺激を受けて頂く活動を職員全員で行っています。日々、認知症のご利用者向き合う中で職員一人一人がケアの意義や効果を考える中で質の向上に努めて参りました。職員のスキルアップとして職員の2名が今年度の介護福祉士試験に合格いたしました。

④高齢者グループホーム光の園おくら

令和3年度は、4名の利用者様の入れ替わりがありました。コロナ禍での入院は、私たち職員はもとより、ご家族も面会ができない状態なので、家族、医療、施設の連携が非常に難しかったです。それでも新しい利用者様を迎えて、ホームの中は一段と活気づきました。昨年同様新型コロナ感染予防のために家族との面会、外出行事、買い物、地域との交流、ボランティア受け入れ等、外部との接触を遮断せざるを得ない状況は続いています。そのような中でも少しずつ新しい生活スタイルを受け入れて、今できる事をスタッフ皆で考え行動して

きました。食事レクや花火大会、脳トレや室内ウォーキング、野菜の収穫など利用者の皆様がいきいきと過ごせるように支援を続けてきました。

⑤小規模多機能ホーム光の園おくら

令和3年度は、1年間を通じて初めて登録定員29名で運営しました。年初の目標として月間平均登録者数25名を掲げましたが、結果は24.89とわずかに届きませんでした。しかしながら職員及び利用者ともに新型コロナウイルスの罹患はなく、ケアの質も安定した一年であったと言えます。利用者は糖尿病と診断される方が多く、食事・運動・服薬の療法をバランスよく取り入れたケアで急激な悪化を予防しています。また地域包括支援センターから在宅継続が難しい案件が数件あり、年度内に契約して年度内に終了という利用者が4名いたことも大きな特徴だと言えます。小規模多機能居宅介護の利用方法は多岐にわたっており、職員には通い・宿泊・訪問をオールマイティにこなしてもらうことは必須です。特に訪問は400回/月を超えるときもあり、職員のさらなる質の向上が求められています。

◆社会福祉法人 町田真弘会 中長期運営計画について

【令和3年度の取り組み】

①介護人材の確保

1) 職員の状況について

令和4年4月 正職員への登用人数 ⇒ 1名

総職員数(令和4年4月現在) 61名

※正職員 30名・契約社員 12名・パートタイム 19名

<入退職状況>

	入職		退職		
	契約社員	パート	正職員	契約社員	パート
GH町田	0名	2名	1名	1名	0名
デイ	2名	3名	0名	0名	2名
小規模	1名	1名	1名	1名	2名
GHおくら	2名	0名	1名	0名	0名

離職者(全体) 9名 離職者(正職員) 3名

②マッチング事業を通じた運営場所の選定

多摩市では、グループホームと小規模が建てられるような広い土地が現状みつからないこと。八王子市では、広い土地はあるが、アクセスが悪く集客や人材の確保が難しいことがわかりました。

③サテライト事業所設立の検討

2022年夏以降で町田市における第9期の介護保険事業計画が出るので、ヒアリングを行いながら検討を進めていきたいと考えます。

2.人事労務・給与制度

①働き方改革関連法への対応

- ・年次有給休暇の計画的取得について
10日以上の年次有給休暇が付与される全ての労働者に対し、年5日、時期を指定し有給休暇を取得してもらいました。

②管理者層・一般職に対するステップアップ研修の充実

- ・入社後の新人研修を強化 ※原則 常勤職員に対して
マナー研修、倫理研修、法人概要の説明、認知症基礎研修を実施
- ・一般職員
実践者研修への参加を促し、1名の職員が研修に参加しました。
介護福祉士の資格取得支援（助成金、休暇）を行い2名の職員が介護福祉士の資格を取得されています。
- ・管理層・リーダー層に向けた研修
主任会議時に持ち回りで研修を行いました。自ら足りない所や強めていきたい所を考え学んでいく力を身に着ける一助になったと考えています。
新型コロナウイルスの影響で外部研修への参加は限定しています。

③職員の定着化へ向けた取り組み

- ・常勤契約社員については、勤務継続1年以上を経て正職員化を実施
→令和3年度は1名の契約職員を正職員化済み。
- ・勤続8年以上で介護福祉士の資格を持っているものに対して、特定処遇改善金を毎月の給与に上乗せし支給しています。

3.地域ニーズの把握

令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、運営推進会議は全て書面にて開催。地域のお祭りや、例年開催されていた行事も中止となっています。そのため、地域との繋がりが希薄していかないよう、関係性が維持できるようHPへの情報開示、書面や電話等にて連絡をとっています。

◆法人本部及び各事業所の年間目標（令和3年度）に対する結果

①法人本部

1) 各事業所と連携し目標売上予算達成を達成する。

⇒売上予算達成。+740万円。

2) 年間スケジュール（別紙）をたて、事業計画の進捗確認、修正を行う。

⇒年度が始まる前に年間スケジュールをたてた事により各会議、各事業所との連携がスムーズに行えました。また、月1回の管理者ホーム長会議により、各事業所における事業計画・予算進捗状況の確認も随時行うことができました。

3) 書類、業務等の効率化を図るためICTの整備を行う。

⇒各事業所にi-padを導入しました。入居相談、家族とのWeb面会、社内Web会議と多岐に渡り活用しています。光の園おおくらにてネットワーク環境の整備を行いました。

4) SNSを活用した広報、採用活動の強化

⇒HPをリニューアルし外部の方からわかりやすい内容にしています。

5) 研修体制の強化及び、サービスの質の向上

⇒毎月、個々が自ら研修内容を考え発表する場を設けました。

6) 職員の定着に向けた福利厚生面の充実化。

⇒10日以上有給休暇が付与される全ての労働者に対し、年5日、時期を指定し有給休暇を取得してもらいました。

7) 海外実習生の教育体制の整備、受入体制の強化

⇒技能実習生に対して、生活相談、日本語学習支援を行いました。

1名はN3の資格取得ができました。

8) 事業運営の適正化に向けた内部監査の実施。

⇒10月に全4事業所に対して内部監査を行いました。職員の質の向上と事業所運営の適正化に寄与できたと思います。

8) BCP（事業継続計画）の策定。

⇒新型コロナウイルス編、地震・災害編と2つのBCPを策定しました。

9) 感染症対策、必要備品の確保

⇒マスク12,000枚、消毒用アルコール40リットル、防護服50着の常時保持

各事業所に非接触型体温計を整備。全職員に対して PCR 検査を毎週実施しました。

②高齢者グループホーム光の園町田

1) 年間稼働率 目標 96%以上

⇒98.4%達成。

2) 利用者の現状維持と利用者の個々の想いに寄り添い職員も一緒に楽しめるようにする

⇒利用者の方が重度化してきており、その方一人一人に残されている力と想いに寄り添いながら、職員間で話をし、ケアを行っています。各種行事が行えない中で、ホームで行える事を考え行動しました。

3) 利用者の身体状況、認知症の進行具合を把握し日々の変化に対応したケアを行う。

⇒毎日の申し送り、毎月のスタッフ会議、ケア会議を通じて日々の変化に対応したケアを行いました。利用者、職員を含めて熟考への対応を一番細かく行いました。

4) ご家族への定期的な連絡、又ご家族と利用者の方が一緒に過ごせるような環境を作る。

⇒新型コロナウイルスの影響により外出行事、面会等の制限を行ってます。ご家族への電話等による定期連絡、Zoom を用いた Web 面会の導入を行いました。また、家族会が開催できなかったので日頃の利用者様の様子を動画にし、ご家族へ配布しています。

5) グループホームチームケアの徹底 ※情報共有、職員間のコミュニケーションを図る。

⇒毎日の申し送り、毎月のスタッフ会議、ケア会議を通じて情報共有をはかり、各種行事や日々の業務の中でコミュニケーションを図りました。

6) リーダー層になれるような人材の育成強化。

⇒ホーム長、主任、副主任に対しては利用者の生活指導、利用者生活記録の再編と管理、スタッフの指導・管理の徹底するよう指導を行っています。業務分担を見直し、中堅職員に対して新しい業務を与え、広く業務を覚えさせ、リーダー層の職員には自身の業務をふる事により教える経験、自身の業務の見直し、新しい視点をみつけることを学んでもらっています。

7) 新人スタッフに対する O J T 体制の構築。

⇒新人スタッフに対しての振り返りシート活用は各スタッフへ周知し必ず行うようにしました。メインをホーム長・主任に置き O J T 体制を構築できたと考えます。

8) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒施設内については換気、除菌はしっかり行えています。

9)施設内外の美化運動の徹底。

⇒外回りに関して、雨の日以外は職員が清掃活動を行ってくれきれいな外観を保つことができました。

10) 事業継続運営のための利用待機者の確保。

⇒待機者については月1回の管理者ホーム長会議で集約をし、小規模、デイと連携してきました。現在、デイサービスご利用の方が2名待機されています。

11) 施設が老朽化してきているため、施設内外の整備を行う。

⇒光の園町田の外壁（全面）修繕工事（防水・塗り替え）を行いました。

③高齢者デイサービスセンター光の園町田

1) 年間稼働率 65%以上 月平均利用者数 300名以上

⇒稼働率 68%達成。月平均利用者数 329名。

2) 年間を通じた月平均登録者数 35名以上

⇒月平均登録者数 36名。年間平均 35名以上達成。

3) 居宅支援事業所のケアマネージャーとより密接な連携を図り、ご本人のみならずレスパイトケアも含めてご自宅で地域の一員として生活して頂けるケアを目指す。

⇒独居の方のデイ利用の準備や服薬のお手伝い等、臨機応変な対応を心掛け、またご家族の急な都合等での臨時利用にも対応出来る職員の体制作りを行っている。

4) 生活相談員を中心とした毎月1回の営業会議、日々のカンファレンスを通じ、情報を共有し営業目標をたて統一したケアを実践する。

⇒日々の申し送りの中でカンファレンスを行いケアの意義や根拠を再確認し職員各々が同じ認識のもと統一したケアを行う場を設けている。

5) 居宅支援事業所への積極的な営業活動が行いづらいい中で、既存の居宅支援事業所との関係をより密にし、新規利用者獲得と稼働率維持に努める。

⇒コロナ禍においてサービス担当者会議等ケアマネージャー、ご家族と接触する機会が軒並み中止となる中で、電話や写真を郵送する等の工夫し年間10件の新規契約が出来ている。

6) 生活相談員を主としたリーダー層の人材育成として相談業務全般の指導・スキルアップ。また、職員全体のモラルやケアの質の向上を図る。

⇒居宅介護支援事業所を基本に、ご利用者を担当別に分ける事でより密にケアマネージャー、ご家族と接する事で、より質の高い相談援助支援を行っている。

7) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒ご利用者の中で新型コロナウイルスに感染する方はいなかった。継続して対策を実施していく。

④高齢者グループホーム光の園おおくら

1) 年間稼働率 目標 96%以上

⇒96.5%。入退院が多く、利用者の入れ替わりも多くありましたが、小規模、デイと連携してスムーズに入居に繋げることができました。

2) 利用者の現状維持と利用者の個々の想いに寄り添い職員も一緒に楽しめるようにする

⇒各スタッフが日常的に取り組んでいます。

3) 利用者の身体状況、認知症の進行具合を把握し日々の変化に対応したケアを行う。

⇒利用者の変化に対して気づきはできても、そこから先がケアだという事がわからないため利用者は苦しい。皆、認知症ケアをもっと勉強する必要がある。

4) 認知症の進行の緩和とできる事の維持。

⇒各スタッフが日常的に取り組んでいます。

5) 利用者の状態に合わせた企画、イベントの提供。

⇒おおくらスタッフの得意な分野でもあり、様々なイベントを提供しました。

6) ご家族への定期的な連絡、ご家族と利用者の方が一緒に過ごせるような環境を作る。

⇒コロナ禍で実際の面会は難しかったが、ガラス越しの面会や電話にて定期的に連絡を行いました。

7) グループホームチームケアの徹底、認知症ケアのスキルアップ

※情報共有、職員間のコミュニケーションを図る。

⇒職員同士はよくコミュニケーションがとれている様子だが、情報の共有は常に課題。リーダー層の発信力が弱いので改善していく必要があります。

8) リーダー層になれるような人材の育成強化。

⇒次年度も継続して行っています。

9) 新人スタッフに対するOJT体制の構築。

⇒先輩スタッフが丁寧に指導しています。

10) 職員の定着率をあげる。

⇒離職者は減っています。風通しの良い職場作りを目指します。

11) 事業継続運営のための利用待機者の確保。

⇒現在、小規模で1～2名の方がグループホーム希望にて待機されています。

12) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒1日2回の検温、手洗いうがい、マスク、換気、アルコール消毒徹底、PCR検査等で徹底しています。

13) 感染症対策をしての地域との交流

⇒新型コロナウイルス感染拡大のため、地域との交流は行えませんでした。

⑤小規模多機能ホーム光の園おくら

1) 利用者の年間登録率86%（月平均25名）を目標とする。

⇒年間登録率85.8%（月平均24.89名）

2) ケアプランを読み解き、具体的な支援内容を考える職員を育成する。

⇒個別のカンファレンスでケアプランを活用しており、特に常勤職員はケアプランを理解できている。

3) 職員一人ひとりが、報告・連絡・相談を適任者に行うようにする。

⇒フロアの課題を主任リビングパートナー、利用者の医療的な対応を看護師、利用者、利用者の家族及び関連機関との対応をケアマネに任せ、事業運営が良い方向へ向かっている。

4) 東京都認知症リーダー研修を2名受講させ、チームケアを高める。

⇒新型コロナウイルスの影響もあり外部研修に参加できませんでした。

5) 高齢者グループホームの待機者を含めた新規利用者の獲得を目指す。

⇒本年度は同法人の高齢者グループホームへ3名、サービス移行しており、現在は待機者がいない状態。年間を通して改めて獲得していく。

6) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒感染症が発生していないことから施設内の感染対策は万全といえる。

7) 新事業所もしくはサテライト事業所設立の模索。

⇒場所や諸条件を鑑み、現在も模索中。

◆令和3年度 各事業所「稼働率」達成状況について

①高齢者グループホーム光の園町田

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和2年度	令和3年度	
稼働率	96.9%	(目標) 96%	(結果) 98.4%

<入退所> 退所 5月 1名 (ターミナル)
 入所 7月 1名

②高齢者デイサービスセンター光の園町田

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和2年度	令和3年度	
稼働率	65%	(目標) 65%	(結果) 68.1%
登録定員	34名	(目標) 35名	(結果) 36名

③高齢者グループホーム光の園おおくら

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和2年度	令和3年度	
稼働率	99.4%	(目標) 96%	(結果) 96.5%

<入退所> 退所 9月 2名 (ターミナル・入院後退院の見通しがつかず)
 11月 1名 (入院後退院の見通しがつかず)
 12月 1名 (入院後退院の見通しがつかず)
 入所 9月 1名 / 10月 1名 / 12月 2名

④小規模多機能ホーム光の園おおくら

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和2年度	令和3年度	
月平均登録数	23.3人	(目標) 25人	(結果) 24.9人
登録率	87.6%	(目標) 86%	(結果) 85.8%

◆年間行事 活動結果（各事業所）

令和3年度 上半期（R.3.4月～R.3.9月）

	GH町田	デイ	GHおおくら	小規模
4月	桜花見(ドライブ) 食事レク 避難訓練 桜餅作り	鯉のぼり制作 車窓より桜見学	運営推進会議(書面) 桜花見(ドライブ) 桜餅作り	花見ドライブ 食事レク 誕生会 運営推進会議（書面）
5月	運営推進会議 柏餅作り 畑(夏野菜作り) 庭先食レク(BBQ)	母の日プレゼント 制作 絵手紙制作	新緑ドライブ 柏餅作り 畑(夏野菜作り) 庭先食レク(BBQ)	食事レク 誕生会
6月	紫陽花ドライブ 食事レク	ジャガイモの収穫 梅ジュース作り 花火の壁画制作	運営推進会議(書面) 紫陽花ドライブ	食レク 誕生会 運営推進会議（書面）
7月	運営推進会議 七夕 流しソーメン 食レク（土用の丑の日） 夏野菜収穫	七夕飾り制作 夏野菜収穫 うちわ作り 朝顔の壁画制作	七夕 流しソーメン 花火大会	食レク（土用の丑の日） 食レク（七夕・流しそうめん） 誕生会
8月	町田夏祭り 花火大会 夏野菜収穫	光の園町田オリンピック ブドウ制作	運営推進会議(書面) おおくら夏祭り 夏野菜収穫大会	納涼祭（すいか割） 食レク 誕生会 運営推進会議（書面）
9月	運営推進会議 お月見 BBQ 秋の味覚狩り	敬老会 カルタ取り大会	花火大会 庭先食レク(サンドイッチ祭り) 流しソーメン	敬老会 食レク 誕生会

令和3年度 下半期 (R.3.10月～R.4.3月)

	GH町田	デイ	GHおおくら	小規模
10月	秋刀魚パーティー 避難訓練(消防) もみじ見学	高幡不動ドライブ 紅葉壁画制作 スイートポテト作り 菊の花制作	運営推進会議 庭先食レク(ちゃんち ゃん焼き) ミニ運動会 音楽祭	食レク 誕生会 運営推進会議(書面)
11月	家族会 運営推進会議 紅葉狩り 芋ほり	薬師池公園・真光寺 公園散策 シクラメン制作	避難訓練 庭先食レク 紅葉ドライブ	いちょう狩りドライブ 食レク(焼き芋) 誕生会
12月	クリスマス会 大晦日 冬至(ゆず湯)	クリスマス会 クリスマスツリー制 作 クリスマスケーキ作 り	運営推進会議 クリスマス会 イルミネーション 大晦日	クリスマス会 食レク 誕生会 運営推進会議(書面)
1月	運営推進会議 正月初詣 七草粥・鏡開き	正月初詣 書初め 百人一首大会 独楽回し	正月ドライブ 七草粥・鏡開き	食レク 誕生会
2月	節分 (豆まき・恵方巻)	節分 恵方巻作り 梅の花見学	運営推進会議(書面) 節分 (豆まき・恵方巻)	梅見ドライブ 食レク 誕生会 運営推進会議(書面)
3月	運営推進会議 ひな祭り 梅見ドライブ	チューリップ制作 春の壁画制作	ひな祭り 春彼岸(おはぎ作り) 梅見ドライブ	ひなまつり 食レク 誕生会

◆人材の雇用について

①契約職員の正職員化について ※継続

- ・常勤契約社員については、勤務継続1年以上を経て取り決める評価及び面接を通過したものは皆正職員化する。
⇒令和3年度は1名の職員
- ・介護職員処遇改善加算の交付の仕方について
→毎月の基本給に一部含む。毎月の処遇改善金として支給（資格手当・運転手当含む）
夏季・冬季の一時金として支給
- ・人件費率（69%以下）を目指す
→人件費率は66%でした。

②研修体系の整備について ※継続

- ・新人研修・・・配属前研修、OJT体制の構築等。
- ・一般職員研修・・・新人スタッフへの教育方法研修。認知症ケアのスキルアップ研修。
勤続2年以上勤務者に対して実践者研修受講。
- ・Web研修・・・ZoomやYoutubeなどWeb会議や動画を活用して研修を行う。

③人材の募集について

・ハローワークでの定期的な求人募集、求人広告における採用活動（ネット媒体、紙媒体）を用いて採用活動を行いました。2021年は今までになく応募がこない状況でした。引き続き、中途の採用活動を継続していくとともに、新卒者や海外人材の雇用、社内人材の育成及び強化をしていく必要があります。

④外国人労働者の雇用について

- ・ワールドケア組合での取組
- ・2021年はインドネシア技能実習生2名が光の園おおくらに配属予定でしたが、コロナの影響で入国できず、2022年6月以降になる予定です。

⑤新卒採用について

- ・2022年卒の高校生を対象にした採用活動
⇒3名面接を行い、内2名を採用
※2022年4月よりGH光の園おおくら、デイサービス光の園町田にそれぞれ配属。

◆ICT化について

○令和 3年度 ICT機器導入の推進

- ・将来的な記録システム、見守り機器導入も視野に入れながら、各事業所におけるwi-fi環境の整備を行う。
⇒光の園おおくらにてWi-fiの整備を行いました。
- ・相談業務、ブログ、会議についてはiPadを活用していく。
⇒全事業所にiPadを整備しました。

- ・事務（給与計算・会計・労務管理）作業の効率化について
→タイムカードのシステム化、労務・会計管理のソフト導入を検討
⇒引き続き検討していきます。

- ・身体的な負担削減について
→機械を用いた、利用者の移乗時における職員の身体的負担削減等。
→パワースーツの試験的な導入（1台10万ほど）
⇒引き続き検討していきます。

- ・利用者の支援体制強化について
→見守り支援サービス（センサーマット等）、入浴（機械浴）の検討
⇒引き続き検討していきます。

◆BCP（事業継続計画）について

- ・令和2年度にBCPを策定。
 - ①新型コロナ対策向け
 - ②地震、災害対策向け
- ⇒上記2点について、職員への周知、研修を行うとともにBCPの中身を精査し必要に応じて見直し、修正を行っていく。

◆職員定例会議、各種外部会議、研修、委員会の実施状況について

各事業所・・・管理者・ホーム長会議 毎月1回実施
 スタッフ会議 毎月1回実施

主任会議・・・毎月1回実施 ※各事業所の報告、事例検討、リーダー層への研修

サービス毎の連絡会

GH連絡会・小規模連絡会・通所連絡会・鶴川圏域社会福祉法人連絡会

⇒新型コロナウイルスの影響で対面での会議は中止。

不定期にて Web 開催

令和3年度 研修実施状況

月	参加人数	研修内容
4月	21人	安全配慮義務について、BCPについて
5月	21人	認知症ケアのコミュニケーション・傾聴、行動制限とBPSD
6月	20人	パーキンソン病について、新型コロナウイルスについて
7月	20人	介護職のための拘縮ケア、ユマニチュードについて
8月	20人	チームビルディングについて、5S活動の推進について
9月	20人	高齢者の転倒(原因と予防について)、サービス担当者会議について
10月	20人	内部監査について、バイタルサインについて
11月	20人	利用者の意思決定支援について、レビー小体型認知症について
12月	20人	施設長研修、1年間を振り返って
1月	20人	嚥下・誤嚥とは、アルツハイマー型認知症新薬について
2月	19人	介護士の倫理
3月	19人	介護現場におけるOJT、パワハラ防止規程について
年2回	職員全員	身体拘束・虐待に係る研修
12月	32人	外部講師によるオムツ・パットのあて方研修(Web)

<委員会活動> 実施状況

① 事故・防災委員会

今期はコロナ禍と言う事も有り、集まって出来ないと言うやりづらい環境でした。その中で集まらなくても出来る備蓄品の確認や防災クイズなどにシフトを替えて結果が出せたかと思えます。防災クイズなど、やって楽しかっただけで終わらせず、防災に関する知識等がすべての職員が頭に入って実際の現場で力を発揮出来るような体制を、これから整えていかなくてはならないと思えます。防災クイズ、アンケートを行い自分たちの事業所の電話番号、住所が分からない職員が居る事が分かりました。まずは自分の事業所の事をしっかり知っていく必要が有ると思えます。

スタッフミーティング等の場で今後も継続して今回作成したクイズやアンケートを使用して事業所の事、防災の事を周知してもらいたいと思います。

② 研修委員会

コロナ渦で体験型の研修は行えませんでした。ZOOMを使い、メーカーさんにも協力頂き、「オムツ・パットの当て方」外部研修を行う事が出来ました。スタッフが何に困っているのか等、普段から注意し研修等立案出来れば、興味を持って研修にも参加してもらえと思いました。今回、職員に対して事前のアンケートを行いました。職員からのアンケートで質問等がたくさん上がった事で、研修として何が求められているのかを考えることができ、委員会のモチベーションにも繋がったと思います。

③ E c oクリーン委員会

リモートを含めて4回開催しました。「委員が中心となり5S活動を進めていけるような取り組みを行なう。掃除点検表に基づき点検を行う。」を目標に活動を行いました。結果として、前年度の掃除点検表を見直しグループホーム・デイ・小規模と各事業所に新規のものを作成。全社的に整理、整頓、掃除の意識を高めることができました。一方でクリーンは伝えられたが、エコについては余り発信できなかったと課題も残りました。次年度以降、エコの面も強化していく昼用があります。

④ レクリエーション委員会

事業所合同で集まって交流するのではなく、各事業所で行ったレクを共有し、各職員がレクと向き合う際の気づきやヒントを得るための活動を行うことを目標に活動しました。各事業所同じテーマをもってレクリエーションを行い、イベントとして利用者様を盛り上げる事ができました。また、食事レクリエーションのやり方が共有できたことで、日々のレクに活かせるようになりました。また、レクリエーションの目的研修を行い、「なんのためにレクリエーションが必要なのか」を考える機会ができ、職員の質の向上に資する事ができたと考えます。

⑤ まちだ・おおくら交流委員会

新型コロナウイルスの影響により、委員会としての職員同士の交流活動が思うようにできませんでした。ZOOMなどで交流とも考えましたが、実施することができませんでした。コロナ収束後職員間の交流として何を行いたいかを話し合ったところ、カラオケ・お花見・BBQ・ビアガーデン・運動会・日帰り社員旅行など行いたいという意見がでました。次年度以降に交流ができるよう検討していきたいと考えます。

◆地域との交流事業について

①運営推進会議

- 高齢者グループホーム光の園町田 (年6回)
 - 5月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 7月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 9月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 11月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 1月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 3月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
- ※新型コロナウイルス対策として外部の方は書面出席にて実施

- 高齢者デイサービスセンター光の園町田 (年2回)
 - 7月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 3月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催

- 高齢者グループホーム光の園おおくら
 - 4月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 6月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 8月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 10月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 12月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 2月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
- ※新型コロナウイルス対策として外部の方は書面出席にて実施

- 小規模多機能ホーム光の園おおくら
 - 4月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 6月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 8月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 10月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 12月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
 - 2月 定例会・虐待防止委員会 →書面開催
- ※新型コロナウイルス対策として外部の方は書面出席にて実施

②中学生職場体験・各種実習生の受入

新型コロナウイルスの影響で外部からの受入はなし。

③大蔵町内会盆踊り・鶴川学園ふれあい祭り

新型コロナウイルスの影響で中止

<地域における公益的な取り組み>

- ・各種連絡会を通じた地域における取組

GH連絡会

10月のグループホーム作品展示会は新型コロナウイルスの影響で中止。

- ・地域への参加と交流

子供神輿、地域の町内会、児童との交流、大蔵町内会の盆踊りへの出店、鶴川学園ふれあい祭りへの出店も全て新型コロナウイルスの影響で中止。

- ・施設内スペースの地域への開放検討について

予算を設けて着実に畑の整備を行っています。

◆社会福祉充実計画に関して

令和2年度期末時点 社会福祉充実残高 ▲ 59百万円程

令和3年度期末時点 社会福祉充実残高 ▲ 72百万円程

→社会福祉充実残高がマイナスのため社会福祉充実計画は策定致しません。

以上